

参加者の「声」から考える地域日本語教室の役割 ～より良い地域づくりのために～

(公財) ひろしま国際センター
犬飼康弘

はじめに…

地域日本語教室は_____ところ

はじめに…

言葉の問題が解決すれば、全ての問題が解決する？

たとえば…

- 最初の1年はつまらなかった。言葉も分からないし、行く場所もないし、付き合ってくれる人もいなかったです。
- 日本語教室に来てからは…色々な活動を通して〈中略〉たくさんの日本人と知り合って、話して、仲良くして、**自分はこの町の住民だと実感**できました。
- 寮から出て町を歩く時の心細い気持ちがなくなって〈中略〉だんだん**自分が住んでいる町が好きになりました。**

「地域づくり」という観点が必要

「日本語教育の推進に関する法律」

- 基本理念

- 日本語教育の推進は、日本語教育を受けることを希望する外国人等に対し、**その希望、置かれている状況及び能力に応じた日本語教育**を受ける機会が最大限に確保されるよう行われなければならない

「コミュニケーション」のためには…

補償教育としての
日本語教育

公的機関による
一定以上の質と量

既習の「ことば」を最大限活用
し、積極的にコミュニケーション
することを試みる

「場」の創造

「やさしい日本語」
の活用

相手が分かる「ことば」で、積
極的にコミュニケーションするこ
とを試みる

隣人として
共に「学ぶ」

社会教育の「場」
「まちづくりの」一環

「地域日本語教室」

地域日本語教室を捉える視点

「社会教育」「補償教育」の混同…

地域での日本語支援は…

- 社会的活動に参加することで生活の質を高めていく活動
- それぞれの希望や考え方により添うことから始められる実践



ある方法としてマニユアル化できるものではない

学習者の「声」から考える

- 事例1：教室の良いところは…
- 事例2：日本語能力試験に合格したい！
- 事例3：話したくない！
- 事例4：放っておかれてると思ってた…

事例Ⅰ：教室の良いところは…

- 雰囲気・環境
 - 楽しい・気楽に過ごせる
 - 友達に会える(友達がいる)/いろいろな人と仲良くなれる
 - 美味しいお菓子がある
- 教室スタッフ関係
 - ゆっくり話してくれる
 - スタッフがやさしい
- 活動内容
 - 防災など、様々なことが学べる
 - 生活上の相談ができる(ゴミの出し方など)
 - 日本語の勉強になる

地域日本語教室の機能

- 居場所
 - 「そこにいたい」「いて楽しい」
 - 「ありのままの自分でいられる」
- 交流
 - 情報交換の場＝地域活動への入り口
- 地域参加
 - 交流の結果としての地域参加＝教室の出口
- 国際理解
 - 多様性の存在を認める場＝私達も学ぶ場
- 日本語学習
 - お互いにコミュニケーションの仕方を学ぶ場

事例Ⅰから…

- 「居場所」としての教室の重要性
 - 外国籍住民、日本籍住民を問わず、全ての住民にとっての居場所

参考：山西優二(2011)「『多文化共生に向けての居場所』とは」『シリーズ 多言語・多文化協働実践研究』13 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター pp14-22

- 「自らを表現し社会に参加していく場」になってこそ、「多文化共生」を実現しうる「居場所」

参考：杉澤経子(2011)「『多文化共生』の内実を求めて―上田市における協働実践研究」『シリーズ 多言語・多文化協働実践研究』13 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター pp4-12

- 一見無駄に見える部分も環境要因として重要

ある学習者の「声」

「先生」は私の話を何も聞いてくれず、
自分の話したいことだけを話していた

そもそも、ある人に必要な「ことば」を、
その人のことを知らずに規定することはできない

もちろん、社会情勢の変化やライフステージの変化などに伴い
必要な「ことば」も変化する

事例2：日本語能力試験に合格したい！

- 日本語能力試験N2に合格したい！
 - 理由：4歳の男の子がいる
保育所で先生や友達と話している言葉が分からない…
- 4歳の子どもが話す言葉…
 - 日本語能力試験で対応できる？
 - お母さん同士の会話から学ぶことの方が…

事例2から…

- ニーズは多様だけれども…
 - 学習者が正確に自分のニーズ・問題点を語る・語れるとは限らない
- 目標状況分析<target situation analysis>
 - 将来、学習者が目標言語を使う状況を特定し、それに基づいたニーズ分析
 - 客観的、認識的、成果志向のニーズ
- 学習状況分析<learning situation analysis>
 - 学習者が持つ主観的、感覚的、過程志向のニーズ

事例3：話したくない！

- ワークショップ直前に…
 - 困ったことはたくさんあるが、話したくない
 - 過ぎたことだし、言ってもどうしようもない
- 語ってくれたこと…
 - 自分が外国籍であるために、息子がいじめられた
 - 今は成人し就職もしている
 - 当時、学校に出向いて先生にも相談した
 - 様々な人の助けにより、何とか乗り切ったが、精神的に、とてもつらいことだった

事例2・3から…

- 信頼関係に基づいた「対話」が重要
 - 相互理解への対話を成り立たせること、対話への努力を続けることでさえ、容易なことではない
- 対話を学習者との間にコンスタントに結んでいくためには…
 - どのような状態においても学習者の成長や自己実現を前提とした配慮を続けること
 - 共感的理解を実現することへの意欲と開かれた対話を絶やさない意志の力が求められる

「地域づくり」のためにも…

- 長期的な支援として住民同士の「対話」の場
 - 「あれ?」「むむっ」…と思ったときこそ、「対話」が必要
 - 「対話」を生み出す人間関係形成・相互理解を促す活動
 - 外国人市民と接することで印象が変わることも…
 - 「とっつきにくい」→「日本人と同じだと思いました」
 - 「遠い存在」→「身近に感じられます」
 - 「話しにくい雰囲気」→「話しやすい」
- 
- よりよい「地域づくり」へ…

このような「地域日本語教室」では…

- 役割の流動性
 - 役割の交代が比較的自由に起こる
 - 学習者の視点での支援
- 組織としての流動性
 - 双方とも定期的・継続的ではない
 - 全ての市民に開かれた空間

事例4：放っておかれてると思ってた…

- ワークショップの後で…

私は、放っておかれてると思ってた

事例4：放っておかれてると思ってた…

日本に来て、最初にだれに会うか、
だれとつながるかということが
本当に大きいです

それで生活が大きく変わります

事例1~4から...

